

## ■ PC の魅力を学生に伝えるには？



井 上 晋\*

「最近の学生は…」という言葉をよく耳にする。私自身も数十年前には言われていたのではあるが、大学教育に30年以上携わっていると、5～10年ごとに学生の気質が変わっていくように感じる。これは当然、彼らが育ってきた時代の状況に大きく影響を受けているのであるが、教育や研究指導、就職指導に際して戸惑うことが最近増えてきている。

筆者の所属学科では、10年くらい前までは、卒業に必要な単位（134単位、現在は124単位）に対して、10～20単位多めに取得する学生がかなりの割合で存在していた。しかし最近では、必要単位ぎりぎりまで卒業する学生が多く、しかも優秀な学生層でその割合が高いという傾向が顕著に見て取れる。つまり、優秀な学生ほど3年前期までの早い段階で単位を揃えてしまい、あとは4年時の卒論を残すのみとしているのである。3年後期から4年前期にかけては、カリキュラム上、土木の各領域で専門色の高い科目（筆者が担当するコンクリート系科目では、コンクリート構造学、プレストレストコンクリート工学）が配当されているのであるが、ここ数年履修者が減少傾向にあり、各分野の詳細な知識と魅力が伝えきれていないのが実情である。この時期に科目を履修しない理由を聞けば、①優秀な学生ほどGPA（履修科目の成績の平均値：grade point average）が下がることを嫌う、②就職活動など、他の活動に時間を費やしたい、ということであるが、要は、学生に履修に値するインセンティブを与えることができていないということであろう。PCの魅力を授業を通じて伝えようとしても、3年後期以降では遅く、彼らはPCをほとんど知らないまま就職活動に入ってしまうという歯がゆい現実があり、各大学の先生方も苦慮されているのではないだろうか。

このような現状を打破する一つの方策として大いに

役立てていただきたいのが、PC建設業協会（PC建協）が実施されておられる「PC技術専門家派遣事業」の利用である（できれば3年前期までに）。この事業は、PC建協会員企業の技術者から、実務体験と業界や企業の紹介を交えながら、PC技術が施工現場でどのように用いられているかなどを解説いただくもので、依頼された大学の先生方からは、学生の志望業界・企業研究に役立った、あるいは就職活動への動機付けになった、との感想も得られているようである。

筆者の学科でも、数年前から3年後期の「コンクリート構造学」の講義の1コマを使って、同様のご講演を実施いただいている。ちなみに、後期に本学で実施いただいた講演に関するアンケート項目のうち、「PC構造物に興味を持ったか？」という問いに対して、51名の学生のうち、「とても興味を持った」が24%、「少し興味を持った」が73%、また、「講義内容が将来の進路選択の参考になったか？」という問いに関しては、「とても参考になった」が16%、「参考になった」が69%という結果であり、ほとんどが肯定的な回答であった。

この講義を受けた学生がどれほどPCに興味をもち、また、それがきっかけとなってPC業界に就職を決めるかは、年によって当然異なると考えられるが、就職活動の前半でPC業界というものを知識としてインプットできる点には大いに価値があると考えている。私のとりあえずの仕事としては、「とても興味を持った、とても参考になった」と回答した約20%の学生のうち、少しでも多くの学生をPC業界に導くことであろうか。

大学の講義のなかでPCについて十分な時間を割くことができない昨今において、この事業の利用をぜひご一考いただければ幸いである。

\* Susumu INOUE：大阪工業大学 工学部 都市デザイン工学科 教授、工学部長  
本工学会副会長